

八幡沼と八幡平山頂

八幡平高原は海拔 1,613 メートルにある台地状の山頂で、ここには穏やかな湖沼、広々とした湿原、広大なアオモリトドマツの森林があります。沼の中でも一番大きく、地域の象徴でもあるのが八幡沼です。

約 7,300 年前に形成されたこの火口湖は周囲約 1.5 キロメートルです。沼を囲む板敷きの道を通して周囲の湿原を散策できます。夏の半ばから初秋にかけて、湿地はゼンテイカ、チングルマ、ワタスゲなどの高山植物が咲かせる花で明るく色付きます。

近くにある鏡沼は、晩春に起こる自然現象にちなんで八幡平ドラゴンアイというニックネームがつけられています。沼のふちの雪が溶けて沼の輪郭が開くにつれ、残っている氷の中心も溶け始めます。上から見ると、沼は巨大な目のように見えます。沼は美しいですが、雪解けの間は危険なので沼のふちに近づかないで下さい。

見返峠は秋田県と岩手県の県境に位置しています。見返峠からは、東に八幡平およびその湖沼と湿原、南に岩手山、早池峰、秋田駒ヶ岳などの山々のパノラマの景色が一望できます。また、見返峠では、八幡平山頂レストハウスと駐車場が利用できます。